

論文の内容の要旨

論文題目: Development and evaluation of a novel education method for training for medical interpreters (医療通訳養成システムの開発、評価)

氏名:大野 直子

【目的】

本研究の目的は、医療コミュニケーション・通訳理論に基づいた医療通訳養成システムを開発し、評価することである。現在日本では、ボランティアベースの医療通訳が行われている。米国ではワシントン州など法律で言語サービス提供を定め資格要件を有する所もあるが、日本では制度が未整備である。医療通訳はボランティアで行うには内容が専門的で負担も大きい。外国人居住者が増加する中で、医療通訳の重要性がメディアで報じられ、各地で医療通訳養成講座が創設されているが、養成システムはまちまちである。そこで、本研究では文献のシステマティックレビューにより、医療通訳に必要なスキルを特定し、医療通訳者養成システムを開発し、評価する。

研究1) 医療通訳養成に効果のある要素を明らかにし、医療通訳養成システムを開発する。

研究2) 開発したシステムによる教育の効果を無作為化比較試験によって評価する。

【方法】

方法1) 医療通訳に関する先行論文をレビューし、医療通訳養成に効果のある要素を明らかにする。PubMed、PsycINFO、Cochrane Library、Google Scholar で、2005年10月～2010年12月までに掲載された原著論文を検索する。検索キーワードは以下のとおり: “Healthcare Interpreter”/ “Healthcare Interpreters”/ “Medical Interpreter”/ “Medical Interpreters”。組入れ基準は(1)査読つき論文(2)医療通訳に必要な主要素について明確に述べているもの、とした。

方法2) ランダム化比較試験を行った。参加者の組入れ基準は、18歳以上、TOEIC650点以上、以前に医療通訳研修受講経験がないこととした。

参加者を介入/対照群にランダムに割り付けた上で、名古屋で3日間(20時間)のプログラムを行った。介入群は医療通訳プログラム、対照群は通訳プログラムを受講した。参加者は受講初日と最終日に、模擬医療面接および筆記試験を受けた。評価項目は通訳の質の変化、筆記テストおよび非言語コミュニケーションスキルの変化である。介入群と対照群に、TOEICスコアにおいて有意差がみられたため、TOEICスコアを調整した結果を求めた。

【結果】

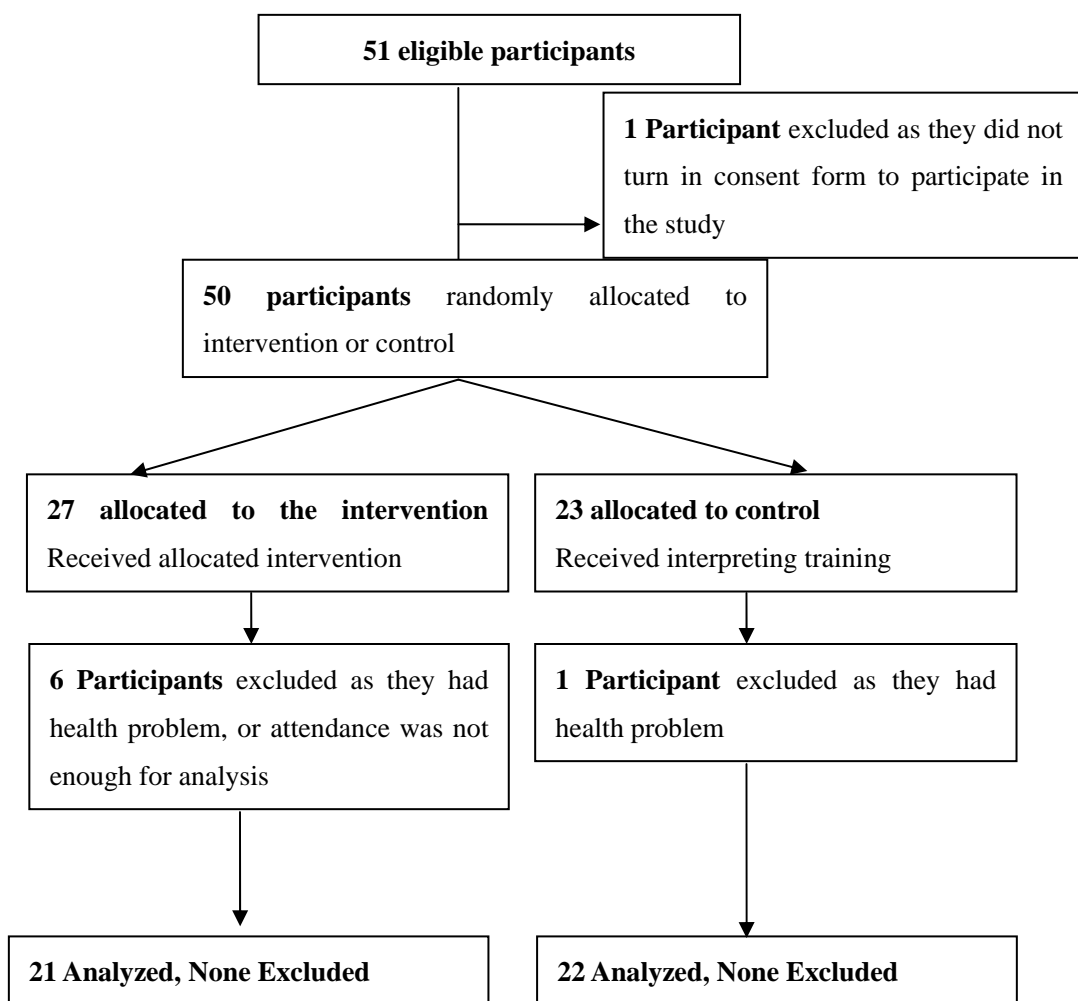
結果1) 医療通訳に関する先行論文をレビューした結果、医療通訳に必要なスキルは①正確な通訳、②医療用語や人体に関する知識、③医療通訳倫理、④非言語コミュニケーションスキル、⑤異文化コミュニケーションスキルであった。これらスキルをトレーニングするため、通訳トレーニング、コミュニケーションスキル開発、医学知識開発の中から医療通訳に必要な教育方法を組み合わせ、3日間、計20時間の医療通訳養成システムを開発した。

Table Content of program for the intervention and control groups

	Contents of Intervention (Intervention) (Date: July 3, 10, 17, 2010 9:00-17:00)	Contents of Intervention(Control) (Date: July 4, 11, 18, 2010 9:00-17:00)
Day 1	Pre-test / Questionnaire [Lecture] What is medical interpreting? Frequently used phrases in medical encounters Code of ethics [Practical Training] Quick response Note taking Medical interpreting: Reception, medical interview	Pre-test / Questionnaire [Lecture] What is business/ liaison interpreting? Let's interpret: speech [Practical Training] Quick response Note taking
Day 2	[Lecture] Introduction to anatomy Introduction to non-verbal communication Cross-cultural communication [Practical Training] Shadowing Sight translation Medical interpreting: Drug administration guidance	[Lecture] Introduction to communication Introduction to public speaking [Practical Training] Shadowing Sight translation
Day 3	[Lecture] Terminology in hospital [Practical Training] Reproduction / Paraphrasing Transcription Interpreting informed consent Post-test / Questionnaire	[Lecture] Voice of various interpreters Introduction to simultaneous interpreting [Practical Training] Reproduction / Paraphrasing Transcription Post-test / Questionnaire

結果2) 開発した医療通訳養成システムを用いて学習者への実験的介入を行った。登録者は 51 名、年齢は 22～62 歳であった。評価対象者は 43 名であった。TOEIC スコア調整後の結果では、介入群において通訳の質の改善(言い足しミス減少($p=0.02$))、訳出した文章数の向上($p=0.03$))が有意に大きくみられた。また、筆記試験の得点も介入群で有意($p < 0.001$)に大きく上昇していた。非言語コミュニケーションスキルについては、有意差は認められなかった。

Figure Study flow diagram



【結論】

開発した医療通訳養成システムは、学習者の通訳の質、知識(筆記試験点数)の改善に有効であり、プログラムの有効性が確認された。

<本研究の特徴>

本システムは、文献レビューにより得た医療通訳養成に効果のある五要素に基づいて構築された、という点が独自である。また、実験は各種バイアスを防止するためランダム化比較試験(RCT)の形を取ったが、医療通訳養成システムの評価でRCTの形式を用いたものはこれまでにない。しかし、サンプル数が少ないため、本研究の結果に基づきプログラムの改善をしたうえで、より大規模なサンプルで効果を確認することが求められる。